

別記

調査書の記入方法

1 一般的注意

(1) 調査書は、県教育委員会が配布する電子媒体での書式で作成するか、実施要領に示す様式第2号によって作成する。その際、各項目記入欄の位置や大きさに変更を加えてはならない。記入する文字の大きさは、文字数に応じて変えてよい。

なお、作成した調査書を複写（コピー）してもよい。この場合、複写後に校長印（職印）を押印する。

(2) 調査書は、志願者1人につき1通を作成する。

(3) 調査書の内容は、事実に基づいた正確なものでなければならない。また、重要なことや顕著なことについて、脱落等があってはならない。

(4) 記入に当たっては、黒色インクを用い、原則として常用漢字、1、2、3等の算用数字及び現代仮名遣いを用いる。

ただし、固有名詞はこの限りではない（学校名・校長氏名・記載者氏名・数値・記号等は、ゴム印を使用してもよい。）。

(5) 本文中における「第2学期末」の箇所は、2期制を実施している学校にあつては、「12月の調査書作成時点」と読み替える。

2 各項目の記入

(1) 基本的事項

ア 氏名、ふりがな (①)

小学校児童指導要録から転記する。

イ 性別

「男」又は「女」の文字を記入する。

ウ 生年月日

年齢は、令和7年4月1日現在の満年齢で、月以下は切り捨てて記入する。

(2) A 各教科の学習の記録

ア 観点別学習状況 (②)

(ア) 記入する観点別学習状況

第6学年における第2学期末までの観点別学習状況とする。

(イ) 評価の基準

観点別学習状況の評価の基準は平成31年3月29日付け30文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」及び「静岡県公立小・中学校及び義務教育学校児童生徒指導要録の取扱い（令和6年3月）（以下「児童指導要録の取扱い」という。）」に準ずる。

なお、「児童指導要録の取扱い」については、静岡市の場合は「静岡市立小・中学校児童・生徒指導要録の様式及び取り扱い」、浜松市の場合は「浜松市立小中学校児童生徒指導要録の様式及び取扱い」を参照する。

観点別学習状況は、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「児童指導要録の取扱い」に示す各教科の「評価の観点及びその趣旨」及び「学年別の評価の観点の趣旨」に従い、教科ごとにA、B、Cで評価する。この場合「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。その際、あらかじめ一定の比率を定めて機械的に割り振ることのないように留意する。

調査書への記入に当たっては、次に示す各教科の観点別学習状況における区分と観点>に従い、観点別学習状況(②)の1～3に、A又はCの評価の場合のみ記入し、Bの評価の場合は空欄とする。

<各教科の観点別学習状況における区分と観点>

教科	区分	観 点
国 語	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
社 会	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
算 数	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
理 科	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
音 楽	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
図画工作	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
家 庭	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
体 育	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度
外 国 語	1	知識・技能
	2	思考・判断・表現
	3	主体的に学習に取り組む態度

イ 評定 (③)

各教科の評定については、次のとおりとする。

(ア) 記入する評定

第6学年における第2学期末までのもの。

(イ) 評定の基準

各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、記入する。

各教科の評定は、3段階で表し、3段階の表示は3、2、1とする。その表示は小学校学習指導要領に示す目標に照らして、「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1とする。

(3) B 総合的な学習の時間の記録

この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、「児童指導要録の取扱い」を参考に、総合的な学習の時間に関する評価(④)には児童の学習状況の顕著な事項についてその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記入する。

なお、評価は第6学年における第2学期末までのものとする。

(4) C 新体力テストの総合評価

令和6年度に実施した「新体力テスト」の結果の総合評価(A~E)を記入する。総合評価は「新体力テスト実施要項」による。なお、令和6年度に1種目でも実施できなかった者については記入せず、斜線を引くとともに、「H その他」にその理由を記入する。

(5) D 特別活動の記録

ア 活動の状況 (⑤)

特別活動における内容ごとに、第6学年における第2学期末までの活動の主な事実のみを記入する。その際、所属する係名や委員会名、クラブ名及び学校行事における役割分担等についても記入する。

なお、記入すべき事項がない場合は、「なし」と記入する。

イ 特別活動に関する所見 (⑥)

児童の活動の状況について、「児童指導要録の取扱い」の「評価の観点及びその趣旨」を参考に、総合的な所見を記入する。その際、優れている点など、児童の特徴に関することを記入する。

(6) E 行動の記録

第6学年における第2学期末までにおける各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動及び学校生活全体にわたって認められる児童の行動についての特徴を記入する。

ア 状況 (⑦)

項目ごとに児童の行動について、「児童指導要録の取扱い」の評価項目及びその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○を記入し、その他は空欄とする。

イ 行動に関する所見 (⑧)

児童の行動の状況について、総合的にみた場合の特徴及び指導上留意すべき事項を記入する。その際、児童の優れている点、長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるように留意する。

(7) F 出欠の記録

ア 欠席日数については、第1学年から第6学年第2学期末までについて記入する。

出席停止日数は含まないことに注意する。

欠席がない場合は0と記入する。

イ 欠席の主な理由 (⑨)

第1学年から第6学年第2学期末までについて、欠席の主な理由を記入する。

(8) G 諸活動の記録

第1学年から第6学年第2学期末までにおける、次に示す児童の諸活動のうち、該当する部門の校内外の活動について、顕著な実績を記入する。

なお、顕著な実績が認められない場合は、「なし」と記入する。

(諸活動)

文化的活動、体育的活動、ボランティア活動、その他の部門における活動

(顕著な実績の内容等)

各種大会、競技会、スポーツ少年団等での顕著な実績(順位や記録、ポジション(役割)など)のほか、実用英語技能検定〇級(〇学年)、書道(〇〇会)〇段(〇学年)等の技術レベルについても、賞状や認定書などをもとに、大会名や主催者などとともに正確に記入する。

(9) H その他

次に示す事項について記入する。

なお、該当事項がない場合は、「なし」と記入する。

ア 進路、適性及び意欲等

進路、適性及び当該県立高等学校中等部を志願するに当たっての学業に対する意欲等、特に記述を要すると判断した事項があれば、それを記入する。

イ 海外での就学状況

海外で居住していた経験がある場合、その国名、期間(平成(令和)〇年〇月～〇年〇月)及び海外で在籍していた学校名を記入する。

ウ その他特に記入する事項

当該県立高等学校中等部校長に知らせておく必要があると思われる事項、面接に際し特に配慮の必要な事項、就学上、特に配慮を必要とする身体の疾病、異常又は既往症等を記入する。

(10) 調査書の証明

調査書作成年月日、小学校名、記載者氏名及び校長氏名を記入し、校長印(職印)を押印する。

なお、小学校名は、公立の場合にあつては「〇〇立〇〇小学校」、私立の場合にあつては「学校法人〇〇〇 〇〇小学校」と記入する(1(4)を参照する。)